

# 国語科学習指導案

指導者 吉岡 大泰

- 1 日 時 令和5年11月18日(土) 第1校時(9:00~9:45)
- 2 学年・組 小学校第4学年1組 計31名(男子16名, 女子15名)
- 3 場 所 4学年1組教室
- 4 単元名 物語と自分をつなげて読もう「手ぶくろを買いに」
- 5 単元について

文学には世代を超えて読者に感動を与える不変的な価値がある。そこには古典文学だけではなく、小説や絵本、児童文学も含まれる。このことを斎藤(2019)は、名作文学は「生きる上で大切なメッセージが数多くこめられている」と述べ、松本(2020)は、文学を読むことは、「自己の存在に意味を与え、他者との関係の中に自己を紡ぎ出していく」ことであると述べている。本教材「手ぶくろを買いに」は、冬の寒い日に人間の町に手袋を買いに行く子狐とそれを心配する母狐の姿から、変わることはない母と子の愛情や人間の善悪について考えることができる物語である。1954年から2011年まで教科書に掲載され、長年にわたって親しまれてきた本教材は、豊かな色彩語や直喩を用いた感情表現が多く用いられており、情景描写や場面の移り変わりに注目することで、叙述をもとに登場人物の心情を想像豊かに読み味わうことができる。

これまで本学級の児童は、教材文「白いぼうし」で一次感想から学習課題をつくり、場面と場面をつなげて叙述から答えをまとめる学習を行っている。また、「世界一美しいぼくの村」の学習では、最後の一文の有無による読後感の違いについて考えるなど、自分の一次感想と二次感想を比較し、自分の読みの変容を感じる学習を繰り返し行ってきている。事前アンケートでは、物語を読むことを好む児童が多い中、物語の学習を自分の生活に活かしていると回答した児童が18名(60%)しかおらず、物語を読むことの楽しさや実生活との関わりを感じる児童が少ないということが明らかとなった。

指導にあたっては、中心人物である子狐と母狐の人間に対する認識の違いを捉え、人間について懐疑的な母狐の最後の台詞から、児童自身の「人間」についての見方について考えられるようにしたい。そして、「同化」「対象化」から「典型化」を促し、物語と自分とのつながりを自覚できるようにしたい。そのための指導の重点は三つある。一つ目は、本単元に入る前の「しつらえ」として、ごんぎつねの学習を行うことである。同じ作者の違う物語を読むことで、作品に共通する2つの対立物の葛藤や最後の一文の重要性を理解し、物語を読む構えをつくっていききたい。二つ目は、つけたい「言葉の力」を明確にすることである。本単元では、言葉を「まとめる」力を付けることをねらった学習活動を繰り返し行いたい。第一次では、物語の客観的な読み方を土台として登場人物の人間への見方、第二次では、自分の人間への見方、そして、第三次では、一次感想と二次感想をもとに自分の変容について「まとめる」学習を行いたい。これにより、複数の文から自分が伝えたいことを要約する力を身に付け、自分の考えを正確に相手に伝えることができるようにしたい。三つ目は、物語の中に自分を登場させた創作活動を行うことである。もし自分がその場にいたら子狐や母狐に何を伝えるのかを考え、母狐の視点から物語の続きを書くことで、母狐の人間に対する見方から自分の人間に対する見方が表出できるようにしたい。そして、創作した物語を交流することで、人間とは一体何なのかという作品の根幹について考え、物語の中に脈々と流れる親子の愛情や他人への優しさ、人を信じることの大切さなど、人間としての不変的な価値に気付くことができるようにしたい。

これらの手立てにより、児童一人一人が自分の感じたことを表出しながら教材文や自分、友達との対話を通して物語世界に深く入り込むことで、物語世界を自分に還元し、自己と向き合い、物語から学んだことを典型化する姿を目指していきたい。

## 6 単元の目標

- (1) 語彙を増やし、様子や行動、気持ちを表す言葉の違いを意識して使い分けることができる。 「知識・技能」
- (2) 登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉え、子狐と母狐の人間に対する見方から自分の「人間」に対する見方・考え方をまとめることができる。 「思考・判断・表現」
- (3) 「人間」について物語を読んで考えたことを話し合い、自分とは異なる他者の考えに共感したり、新たな見方を広げようとしたりすることができる。 「主体的に学習に取り組む態度」

## 7 指導計画（全9時間）

次	時	学習内容
0		「ごんぎつね」を読み、最後の一文に着目して自分の考えを書く。
1	1	絵本「手ぶくろを買いに」の範読を聞き、一次感想を書く。
	2	音読練習をする。物語の設定（時・場・人物）を確認して場面分けを考える。全文を一文でまとめる。
	3	一次感想について話し合い、話し合ったことをもとに中心課題を考える。
2	4	子狐の人間に対する見方を叙述を根拠にまとめる。
	5	とんだめにあった母狐の体験を創作し、母狐の人間に対する見方をまとめる。
	6	物語の最後に自分を登場させた創作を行い、狐の親子に自分が伝えたいこと（人間はいいものか、恐ろしいものか）を物語に書く。
	7	創作した物語をもとに、「母狐の人間に対する見方は変わったのか」という学習課題について考え、「人間とは何か」に対する自分の考えをもつ。 <b>（本時）</b>
3	8	物語から自分が学んだことを二次感想に書き、一次感想と比べながら自分の変容をまとめる。
	9	創作と一次感想、二次感想を読み、自分自身の変容について気づいたことをまとめる。

## 8 本時の目標

創作した物語を基に、「母狐の人間に対する見方は変わったのか」という学習課題について話し合い、物語を通して「人間とは何か」について考えたことを自分の言葉でまとめる。【思考・判断・表現】

## 9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	子狐と母狐の人間に対する見方を叙述を基に想像し、自分の生活や経験と結び付けて「人間」についての見方を広げている。
Ⅱ	子狐と母狐の人間に対する見方を基に「人間」について自分の考えをもっている。
Ⅰ	物語の内容に関係なく自分の主観のみで「人間」について考えている。

手立て【関連する教師の資質能力】

○ 本時では、前時に児童が創作した物語をもとに、「母狐の人間に対する見方は変わったのか」という学習課題について考える。前時に、物語の最後に自分を登場させて母狐に何と言ってあげるかを考えた創作を行った。授業者は、児童が創作した作品を前もって把握しておくことで、児童の思考に基づいて物語の中にある人間の良さやそれでも人間を恐ろしいと思う母狐の心情を取り上げていきたい。授業終盤では、物語に登場する人間の姿から「人間とは何か」について話し合うことで、物語をくぐった児童自らの「人間への見方」を広げて、自身の価値観の変容や広がりを感じられるようにしたい。

【授業実践力】

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を物語に入れてお話を作った。</li> </ul> <p>2. 友達が創作した物語を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間はいいものだよ。だって、人間のお母さんも優しいから。それに帽子屋さんのように、狐に優しい人間もいるんだよ。</li> <li>・人間は恐ろしいよね。動物を捕まえる人だっているからね。</li> </ul> <p>3. 本時の課題を確認する。</p>	<p>○子狐と母狐の挿絵や母狐の最後の台詞を提示し、学習課題が想起できるようにする。</p> <p>○特徴的な児童の作品を取り上げ、共通点や違いを比較しながら考えることができるようにする。</p> <p>○児童の創作を基に、疑問を引き出すことで児童の中から学習課題を引き出していく。</p>
<p>母きつねの人間に対する見方は変わったのか。</p>	
<p>4. 学習課題について自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変わってない。人間は恐ろしいもの。だって、母狐が危ない目にあったから。</li> <li>・変わった。親子の愛情は一緒だから。</li> <li>・ちょっと変わった。子狐が言っていたから。</li> </ul> <p>5. 「人間」とは何か、自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間はいい人もいれば悪い人もいる。</li> <li>・自分にとって大切な物を守るのが人間。</li> <li>・自分だけではなく相手のために優しくできる。</li> <li>・人間には良いところも悪いところもある。</li> </ul> <p>6. 学習を振り返り、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出会う人間によって人間への見方は変わる。</li> <li>・色々な側面があるのが人間だと思う。</li> </ul>	<p>○自分の考えをノートに書き、ペア対話や自由発言を通して読みを交流できるようにする。</p> <p>◆創作した物語や叙述を基に、母狐の変容について自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【ノート記述（思・判・表）】</p> <p>○母狐の変容について、どちらともいえないという考えを引き出し、母狐が恐ろしいと思う人間と子狐が出会った人間の共通点を考えられるようにする。また、母狐はたくさんの人間に出会ったわけではないことをおさえる。</p> <p>○物語の中の人間の描き方を考え、自分の人間についての見方を広げられるようにする。</p> <p>○話し合い後の自分の考えをノートに書き、自己の読みの変容を自覚できるようにする。</p>

【引用・参考文献】

- 日本国語教育学会編(1995)『授業に生きる新美南吉童話』図書文化社。  
 松本修・桃原千英子編著(2020)『中学校・高等学校国語科 その問いは、物語の授業をデザインする』明治図書。  
 田近洵一編著(2014)『文学の教材研究』教育出版。  
 斎藤孝(2019)『国語力が身につく教室』大和書房。